

江蘇省塩城市の自動車産業

岡山県大連ビジネスサポートデスク 小林和暁

(日中経済貿易センター上海事務所 所員 (大連代表処兼務))

市の概要

塩城市は、江蘇省中部、黄海沿岸にある都市で、人口 820 万人（都市人口は約 100 万人）の都市である。市内を 3 本の高速道路が通り、上海市内までは約 3 時間強の距離にある。現時点では上海までは決して近いとは言えないが、2014 年頃高速鉄道が開通する予定で、開通後は上海へ 1 時間台で到達可能となるとなる。また、国際空港を有しており、ソウル、香港、北京、広州などに直行便を持つ。来年には東京便が運行開始される予定である。海運に関しては大豊港を有し、日本へは長崎、門司、博多へ、韓国へは釜山、仁川への航路がある。

塩城市の自動車産業

自動車産業は同市が最も力を入れる産業で、韓国系を中心に自動車部品メーカーが集積しており、「一小、一大、一特、一新」をキーワードに自動車産業の発展を促進している。

「一小」は小型乗用車の生産を指す。同市には韓国・現代自動車グループの起亜自動車が進出しており、現在までに 2 工場が操業、年間 50 万台の生産能力を持ち、先ごろ累計生産 200 万台を達成した。塩城市から 150 万㎡の工場用地の提供を受け、年間 30 万台の生産能力を持つ第 3 工場の建設にも着手している。起亜自動車は 2011 年に中国国内シェアを大きく伸ばし、上位 10 位に食い込んだ。しかしながら、2011 年時点で第 2 工場の生産台数も限界に達してお

り、今後は他社の生産能力が増強されることから、2015 年に予定されている第 3 工場の竣工まではシェアが低下する見通しである。

「一大」は大型バスの生産を指す。現在、年間販売台数は 3 千台程度だが、これを 1 万台にまで伸ばすことを目標としている。

「一特」は特殊車両の生産を指し、日本の富士重工と中国系の悦達グループの合併会社が、ゴミ収集車、除雪車、電動カートなどの特殊車両を製造し、年間 3 千台程度を販売している。

「一新」は新エネルギー自動車の生産を指す。同市は自動車製造能力で世界トップ 10 入りを目指しており、年間 5 万台の電気自動車の生産が計画されている。

塩城経済技術開発区と現代汽車名城

2012 年 11 月 18 日、同市は多くの関係者を招待し、「2012 中国塩城・現代汽車名城 PR 会」を開催した。現代汽車名城は同市南部にある塩城経済技術開発区の中に建設される予定で、自動車工場や物流業の誘致のほか、自動車部品の卸、自動車の改造・改装や修理などのアフターサービス産業、自動車をテーマとしたレストランやテーマパークなどの建設を PR するなど、自動車産業を前面に打ち出した都市発展計画を発表した。また、当日のプロジェクト調印式では中国企業による総額 20 億元の公開テストコースの建設が発表された。

同市は広大な畑が広がる江蘇省中部にあり、上海や南京、青島などの大都市からは一定の距離にあることから、土地が非常に豊富で、かな

りゆったりとした街づくりが行われており、道路は広く、大きな建物は多数見られるものの高層ビルは少ない。それだけに借地料やレンタル工場も廉価である。また、820万人の人口と5つの高等教育機関、44の中等職業技術学校が十分な労働力を供給している。

現状は韓国系企業の集積が目立つが、日系企業の誘致にも力を入れており、開発区内には日系工業園も設置される予定である。



塩城経済技術開発区風景
(後ろは建設中のソフトウェアパーク)

(2012年12月)